

# 猫の暮らし向き予備調査研究(2008年)の概要について

会員の皆様にはお元気で活躍のことと拝察いたします。日頃から本協会の活動にご支援を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。また、動物の暮らし向き調査研究にご協力をいただき心からお礼申し上げます。

今回は、2008年における「猫の暮らし向き予備調査」を行った結果について、単純集計して得られた情報をご紹介します。本協会で実施する猫の調査としては、初年度であり、予備調査であることを考え合わせると、慎重に解釈する必要がありますが、昨年の『愛玩動物』11月号

(210号2～5ページ)に掲載した「犬の暮らし向き調査研究(2008年)の概要(以下、犬の調査という)」と比較しながら、見ていただきたいと思います。今回の調査対象猫は1,176頭(犬の調査では2,903頭)で、頭数が著しく少なかったためか、データの振れがあちこちに見られるので、“多い”“少ない”は“傾向がある”として見る程度にしておきたいと思えます。

なお、2009年における「動物の暮らし向き調査」の集計結果は、9月号以降に順次掲載する予定です。

## 調査研究結果の概要

### 1. 飼い主の性別

	頻度	パーセント
① 男	204	17.3%
② 女	944	80.3%
未記入	28	2.4%
計	1,176	100.0%

飼い主は女性が約80%で、犬の飼い主(女性が約70%)よりも若干高い傾向が見られた。

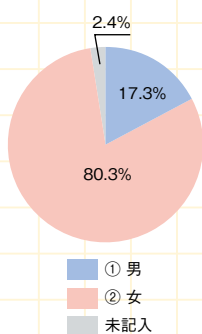


図1. 飼い主の性別

### 2. 飼い主の世帯

	頻度	パーセント
① 1人世帯	162	13.8%
② 1世代世帯(夫婦のみ)	288	24.5%
③ 2世代世帯(親と子)	559	47.5%
④ 3世代世帯(親と子と孫)	111	9.4%
⑤ その他	37	3.1%
未記入	19	1.6%
計	1,176	100.0%

飼い主は「2世代世帯」が圧倒的に多く、次いで「1世代世帯」となっているが、「1人世帯」は犬(約8%)より若干多い傾向が見られた。

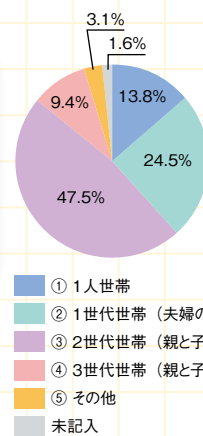


図2. 飼い主の世帯

### 3. 飼い主の居住都道府県

都道府県	世帯の集計	パーセント	都道府県	世帯の集計	パーセント
1 北海道	50	4.3%	26 京都府	28	2.4%
2 青森県	14	1.2%	27 大阪府	61	5.2%
3 岩手県	8	0.7%	28 兵庫県	35	3.0%
4 宮城県	20	1.7%	29 奈良県	17	1.4%
5 秋田県	8	0.7%	30 和歌山県	3	0.3%
6 山形県	6	0.5%	31 鳥取県	3	0.3%
7 福島県	20	1.7%	32 島根県	5	0.4%
8 茨城県	23	2.0%	33 岡山県	19	1.6%
9 栃木県	19	1.6%	34 広島県	32	2.7%
10 群馬県	22	1.9%	35 山口県	9	0.8%
11 埼玉県	89	7.6%	36 徳島県	5	0.4%
12 千葉県	78	6.6%	37 香川県	6	0.5%
13 東京都	185	15.7%	38 愛媛県	7	0.6%
14 神奈川県	122	10.4%	39 高知県	9	0.8%
15 新潟県	27	2.3%	40 福岡県	29	2.5%
16 富山県	9	0.8%	41 佐賀県	6	0.5%
17 石川県	6	0.5%	42 長崎県	3	0.3%
18 福井県	3	0.3%	43 熊本県	6	0.5%
19 山梨県	11	0.9%	44 大分県	6	0.5%
20 長野県	15	1.3%	45 宮崎県	8	0.7%
21 岐阜県	10	0.9%	46 鹿児島県	11	0.9%
22 静岡県	36	3.1%	47 沖縄県	10	0.9%
23 愛知県	38	3.2%	未記入	20	1.7%
24 三重県	13	1.1%	計	1,176	100.0%
25 滋賀県	6	0.5%			

都道府県別飼い主数の順位は、日本の人口、本協会の会員数の分布とほぼ一致していて、この傾向は犬の調査と同様であった。調査対象頭数は犬猫とも、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、北海道、愛知県の順(1～7位)で、猫の8位以下は静岡県、兵庫県、広島県、福岡県、京都府、新潟県、茨城県、群馬県、宮城県など、上位は首都圏周辺や大都市の存在する都道府県が多かった。

### 4. 飼い主の居住地区

	頻度	パーセント
① 住宅密集地区	123	10.5%
② 住宅地区	883	75.1%
③ 商業地区	48	4.1%
④ 工業地区	6	0.5%
⑤ 農林漁村地区	73	6.2%
⑥ その他	13	1.1%
未記入	30	2.6%
計	1,176	100.0%

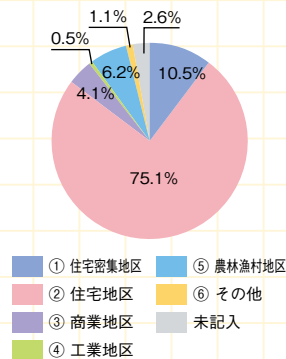
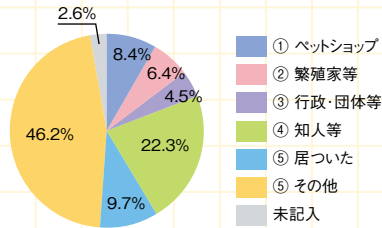


図3. 飼い主の居住地区

犬の調査と同様に、「住宅地区」に住んでいる飼い主が多い。

## 5.入手方法

	頻度	パーセント
① ペットショップ	99	8.4%
② 繁殖家等	75	6.4%
③ 行政・団体等	53	4.5%
④ 知人等	262	22.3%
⑤ 居ついた	114	9.7%
⑥ その他	543	46.2%
未記入	30	2.6%
計	1,176	100.0%

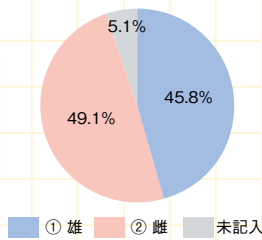


犬の調査では「ペットショップ」「繁殖家等」から入手する人が約60%であったのに対し、猫ではそれらが約15%にすぎなかった。一方、猫で約46%と多数を占めた「その他」を選択した方の内訳の多くは「捨った」に類似した回答であり、今後の調査では選択肢を工夫することが求められた。

図4.入手方法

## 7.猫の性別

	頻度	パーセント
① 雄	539	45.8%
② 雌	577	49.1%
未記入	60	5.1%
計	1,176	100.0%



犬の調査結果とよく類似しており、猫も「雌」が好まれる傾向にあるのではなかろうか。

図7.猫の性別

## 8.猫口ピラミッド2008

年齢	雄	雌	年齢	雄	雌	年齢	雄	雌
0	27	38	10	17	21	20	0	4
1	37	24	11	17	14	21	0	2
2	37	27	12	14	17	22	0	1
3	39	18	13	11	10	23	0	0
4	29	34	14	7	7	24	0	1
5	29	38	15	8	5	25	0	0
6	24	18	16	4	5	26	0	0
7	20	23	17	4	6	27	0	0
8	25	30	18	2	1	28	0	0
9	14	26	19	2	1	合計	367	371

犬の調査では、個体数は0歳で少ないが、年齢とともに増え、4歳で最大となり、以後、ほぼ年齢とともに減少するピラミッドを描いた。猫の場合も基本的には犬とほぼ類似していると考えられ、犬・猫とも年齢別頭数の分布(ピラミッド)は、1つの法則性に従って変動していることがうかがわれた。すなわち、猫の場合も、雄では全体的に、雌では8歳以上で犬とよく類似したピラミッドを示した。しかし雌では7歳以下の分布に大きな振れが見られる。これは調査頭数の不足によるもので、調査頭数をもっと増やせば1つの法則性を示す形のピラミッドが見えてくるように考えられる。今回の調査頭数は1,176頭であったが、不妊・去勢手術の有

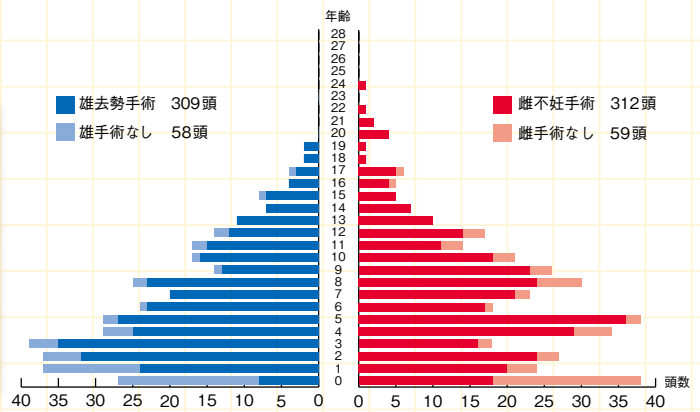


図8.猫口ピラミッド2008

無をも盛り込み年齢別分布に使用できたデータは738頭にすぎなかった。性別に関する設問が複雑で答えにくかった可能性があることから、2010年用の調査票では回答欄を単純化するなどの工夫を図りたい。さらに、猫の場合は、0～1歳を除きほとんどの個体が不妊・去勢手術を受けていることも特徴といえよう。また、猫の調査で、雌の0歳の頭数が最多となったことは心強い。20歳以上の頭数は、犬雄で3頭/1,186頭、犬雌で3頭/1,383頭、猫雄で0頭/367頭、猫雌で8頭/371頭であった。

## 9.不妊・去勢手術

	頻度	パーセント
① している(雄)	343	29.2%
② している(雌)	339	28.8%
③ していない(雄)	64	5.4%
④ していない(雌)	67	5.7%
⑤ 不明(雄)	1	0.1%
⑥ 不明(雌)	8	0.7%
未記入	354	30.1%
計	1,176	100.0%

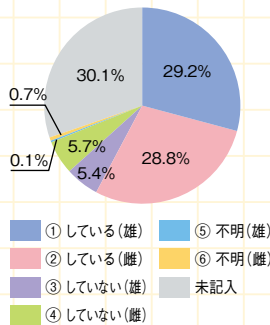


図9.不妊・去勢手術

不妊・去勢手術の設問に「未記入」の割合が、犬の調査では約7%であったのに対して、猫で約30%と多い理由は、8.でふれたように回答欄が複雑であったことも関係しているのではないかと考えられる。

## 6.個体識別(複数回答)

	頻度	パーセント
有	268	22.8%
① 名札(迷子札など)	293	24.9%
② マイクロチップ	34	2.9%
③ その他	29	2.5%
無	796	67.7%
未記入	112	9.5%
計	1,176	100.0%

個体識別をしていない人が約68%であった。犬の調査において個体識別をしていない人は約29%であったことを考えると、犬では義務づけられている狂犬病予防法での登録が影響しているのだろうか。

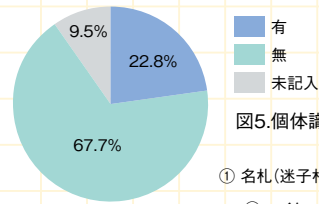


図5.個体識別

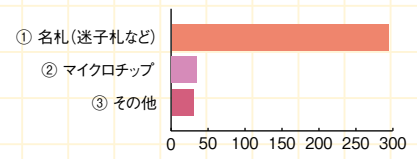


図6.個体識別の種類

## 10.体型(飼い主の判断による)

	頻度	パーセント
① 太っている	119	10.1%
② やや太っている	351	29.8%
③ ふつう	572	48.6%
④ やや痩(や)せている	74	6.3%
⑤ 痩(や)せている	34	2.9%
未記入	26	2.2%
計	1,176	100.0%

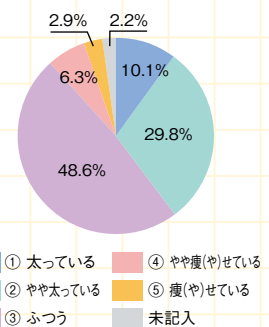


図10.体型

太っているかどうかの基準は示さないで、飼い主の判断で書いていただいたものである。犬の調査では「太っている」と答えた人が4.5%、「やや太っている」と答えた人が20.5%であったのに比べ、猫の飼い主では「太っている」「やや太っている」と答えた人の割合が高い。

## 11. 品種

品種	頻度	パーセント
① 日本猫(雑種を含む)	846	71.9%
② アメリカン・ショートヘア	51	4.3%
③ シyam	2	0.2%
④ ペルシャ	32	2.7%
⑤ ロシアン・ブルー	28	2.4%
⑥ アビシニアン	12	1.0%
⑦ メイン・クーン	15	1.3%
⑧ その他	189	16.1%
未記入	1	0.1%
提出計	1,176	100.0%

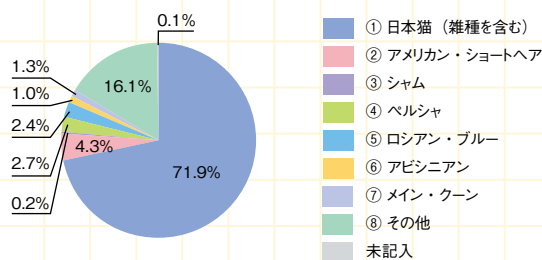


図11.品種

「日本猫」が多くを占め、「その他」の中では洋猫の雑種が多かった。犬の調査では「雑種等」が約2%であった。

## 12. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	915	77.8%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	133	11.3%
③ 子供の情操涵養	6	0.5%
④ 家族のコミュニケーション	26	2.2%
⑤ ねずみ対策	10	0.9%
⑥ 品評会	0	0.0%
⑦ 繁殖	5	0.4%
⑧ その他	50	4.3%
未記入	31	2.6%
計	1,176	100.0%

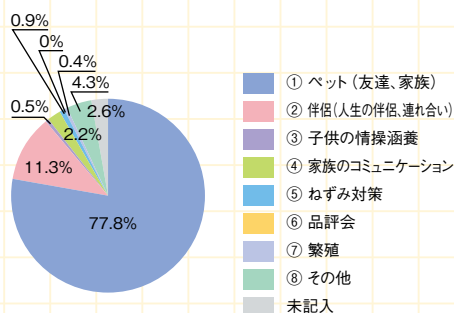


図12.主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

犬の調査でも「ペット(友達、家族)」と答えた人は約78%であった。読売新聞(2005年7月12日)によると、ペットを家族と考えている人は72%であった。

## 13. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	149	12.7%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	366	31.1%
③ 子供の情操涵養	29	2.5%
④ 家族のコミュニケーション	297	25.3%
⑤ ねずみ対策	19	1.6%
⑥ 品評会	1	0.1%
⑦ 繁殖	5	0.4%
⑧ その他	38	3.2%
未記入	272	23.1%
計	1,176	100.0%

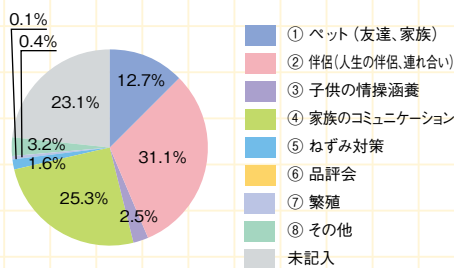


図13.主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

1つだけ選択した場合に、選択されることが少ない「家族のコミュニケーション」が大きく現れた。また、犬の調査では2つ目の理由として「家族のコミュニケーション」と答えた人が1番多く、2番目が「伴侶」と答えており、猫と順番が逆転していた。

## 14. 飼い主の住居の形態

	頻度	パーセント
① 一戸建て	823	70.0%
② 集合住宅	327	27.8%
未記入	26	2.2%
計	1,176	100.0%

犬の場合は「一戸建て」81.7%、「集合住宅」15.8%であったことに比べ、猫では「一戸建て」が減り、「集合住宅」が増えている。

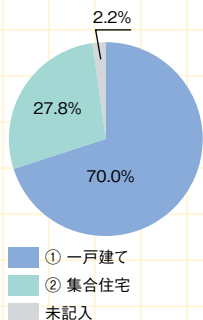


図14.飼い主の住居の形態

## 15. 飼っている場所

	頻度	パーセント
① 室内のみ	936	79.6%
② 主に室内	179	15.2%
③ 主に室外	17	1.4%
④ 室外のみ	17	1.4%
未記入	27	2.3%
計	1,176	100.0%

「室内のみ」が約80%で、犬の約70%より高い傾向が見られた。

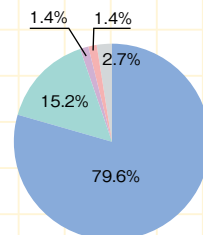


図15.飼っている場所

## 16.主な食事

	頻度	パーセント
① キャットフードのみ	926	78.7%
② 主としてキャットフード (他に手作り調理もときどきまたは少しづつ)	192	16.3%
③ 主として手作り調理 (他にキャットフードもときどきまたは少しづつ)	11	0.9%
④ 手作り調理のみ	5	0.4%
⑤ その他	10	0.9%
未記入	32	2.7%
計	1,176	100.0%

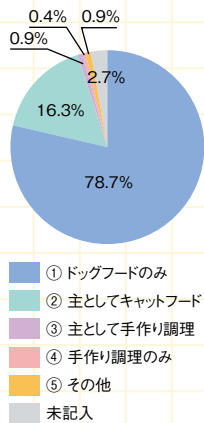


図16.主な食事

犬では、ドッグフードを中心に与える人は約87%、猫では、キャットフードを中心に与える人は95%であった。「キャットフードのみ」と答えた人は78.7%で、犬の「ドッグフードのみ」と答えた人の50.1%よりかなり高率であり、猫におけるペットフードへの依存度の高いことが示された。

## 17.主に食事を用意する人

	頻度	パーセント
① 男	125	10.6%
② 女	1,010	85.9%
未記入	41	3.5%
計	1,176	100.0%

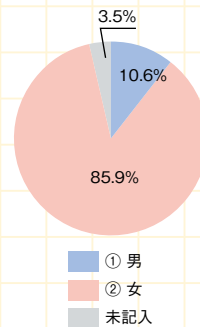


図17.主に食事を用意する人

女性が食事を用意するケースは、犬では83%、猫でも85.9%であった。

## 18.おやつ(しつける時に与える場合は除く)

	頻度	パーセント
① 与えている	414	35.2%
② 与えていない	723	61.5%
未記入	39	3.3%
計	1,176	100.0%

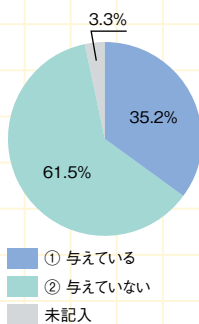


図18.おやつ

犬の調査ではおやつを「与えている」と答えた人は約78%であったのに対し、猫では約35%であった。また、「与えていない」と答えた人は、犬で約20%、猫では61.5%と、猫におやつを与えている人は犬に比べてきわめて少ない。なお、具体的な項目では「かつお節」や「にまし」が上位を占めた。

## 19.サプリメント

	頻度	パーセント
① 与えている	83	7.1%
② 与えていない	1,053	89.5%
未記入	40	3.4%
計	1,176	100.0%

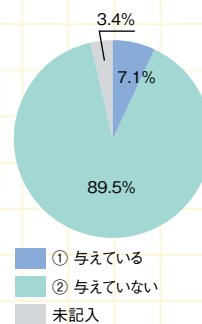


図19.サプリメント

猫にサプリメントを「与えている」と答えた人は7.1%で、犬の24%に比べてもきわめて少ない。

## 20.散歩

	頻度	パーセント
① 毎日する	30	2.6%
② ときどきする	19	1.6%
③ たまにする	47	4.0%
④ しない	1,035	88.0%
未記入	45	3.8%
計	1,176	100.0%

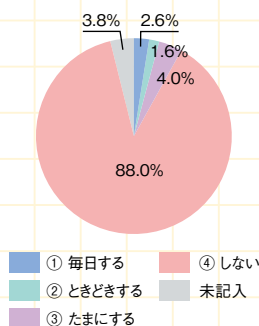


図20.散歩

最近、猫の散歩を見かけるようになったが、実際には少ない。ちなみに犬の調査では、散歩をしないと答えた人は約7%であった。

## 21.散歩に連れて行く人

	頻度	パーセント
① 男	21	1.8%
② 女	84	7.1%
未記入等	1,071	91.1%
計	1,176	100.0%

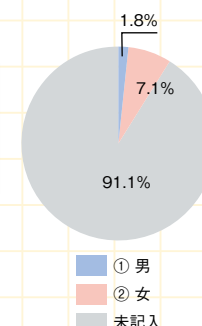


図21.散歩に連れて行く人

散歩に連れて行く人は、17.「主に食事を用意する人」と同様に女性が多い。ただし、食事を用意する人の男女比において女性が男性の約8倍であることに対して、散歩に連れて行く人の男女比では女性が男性の約4倍となり、食事の用意に比べると男性の割合が高い。

以上、猫が飼い主や家族、生活環境とどのようなつながりをもって暮らしているかの調査研究の結果を概説しました。この調査を真に価値あるものにするには、引き続き努力を重ねることが必要です。回を増すごとに皆さんにも調査データのもつ価値の高いことがわかっていただけたと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

おかげさまで、2008年における「犬の暮らし向き調査研究」の内容は大変有意義な成果を含んでいることから、『第12回人と動物の関係に関する国際会議 IAHAIO 2010』（7月1～4日、スウェーデン・ストックホルムで開催）で発表することが決まりました。その内容につきましても、『愛玩動物』に掲載しますので、楽しみにお待ちください。